『比較民俗研究』23. 2009／3

フィールドノート

済州島のヨンドンクッ

報告者：済州島研究会（金泰順　古谷野洋子　大橋克巳　サイモン・ジョン）※

2008年、２回の済州島調査を行った。最初の調査は2008年3月19日～24日の間に行い、下道里、北村里、健入洞（チルモリ）、古城里の４地域のヨンドンクッを見学した。帰国後、済州島のヨンドンクッの研究会を続けるとともに、追加調査として同年8月20日～25日の間に再び済州島を訪れた。２回目の調査では、上述の4地域と、牛島、翰洙里、下貴里、洙源里、新陽里、済州民俗博物館（三陽洞）などを訪れ、村の人々、シンバン、海女会長、老人会長、博物館長などにお会いして聞き取り調査を行った。

本稿は、第１回目の調査で見学した４地域のヨンドンクッの概要の報告と、第２回目の調査で行ったヨンドンクッに関する聞き取り調査の報告である。なお、この２回にわたる調査ではヨンドンクッ以外にもさまざまな調査を行ったが、他の調査については割愛する。

― 目次 ―

●はじめに
済州島の概要、ヨンドンクッとは、ヨンドンクッと海女、済州島地図
1．下道里（集落の概要・ヨンドンクッ報告・高福子シンバンと村の人々からの聞き書き）
2．北村里（集落の概要・ヨンドンクッ報告・海女会長と海女からの聞き書き）
3．健入洞（チルモリ）（集落の概要・ヨンドンクッ報告・金允洙シンバン・民謡専修助教キム・ヒョンヒィ氏からの聞き書き）
4．古城里（集落の概要・ヨンドンクッ報告・村の人々からの聞き書き）
5．牛島（集落の概要・村の人々・梁貞順シンバンからの聞き書き）
6．翰洙里（集落の概要・済州民俗博物館長泰聖麒氏、姜宗圭シンバン、海女会長、老人会長・かつてのヨンドン堂の近所の人々からの聞き書き）

●まとめとして

※金泰順・サイモン・ジョン：神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科後期課程
古谷野洋子：神奈川大学日本常民文化研究所特別研究員
大橋克巳：神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科聴講生

はじめに

済州島の概要

済州島は、大韓民国の済州特別自治道に属する島であり、人口は約55万人、面積は1,845平方キロメートルである。朝鮮半島の南に位置する火山島で、暖かい対馬暖流の影響で年中温暖な海洋性気候に恵まれている。しかし、冬になると北西季節風の影響

や島の中央に漢拏山がそびえる地形的要因により、非常に風が強い。また、台風の通過ルートにもなっている。

かつて、済州島は耽羅国という独立国であり、4世紀頃には百済に朝貢していた。新羅の朝鮮半島統一後は、主に新羅に朝貢するようになった。しかし、12世紀の高麗時代に耽羅州として直轄領として組み込まれ、1214年から済州と呼ばれるようになった。

昔から済州島は“三多島”といわれている。石と風と女が多い島という意味である。“石多”は漢拏山の噴火により流出した火山岩が島の多くを覆っていることに由来する。済州島の人々は土地を覆う石を片付けて畑を整備し、漁港を作り、防護所の塀を築き上げ、島を開拓してきた。“風多”は前述したように風の強いことに由来し、そのため家や畑は石垣に囲まれ、低い屋根は茅縄で縛り付けられていた。“女多”は、漁労による男性の死亡率が高かったことに由来する。済州島の女性は畑を耕し、海の幸を獲るなど、働き者で生活力があるといわれる。

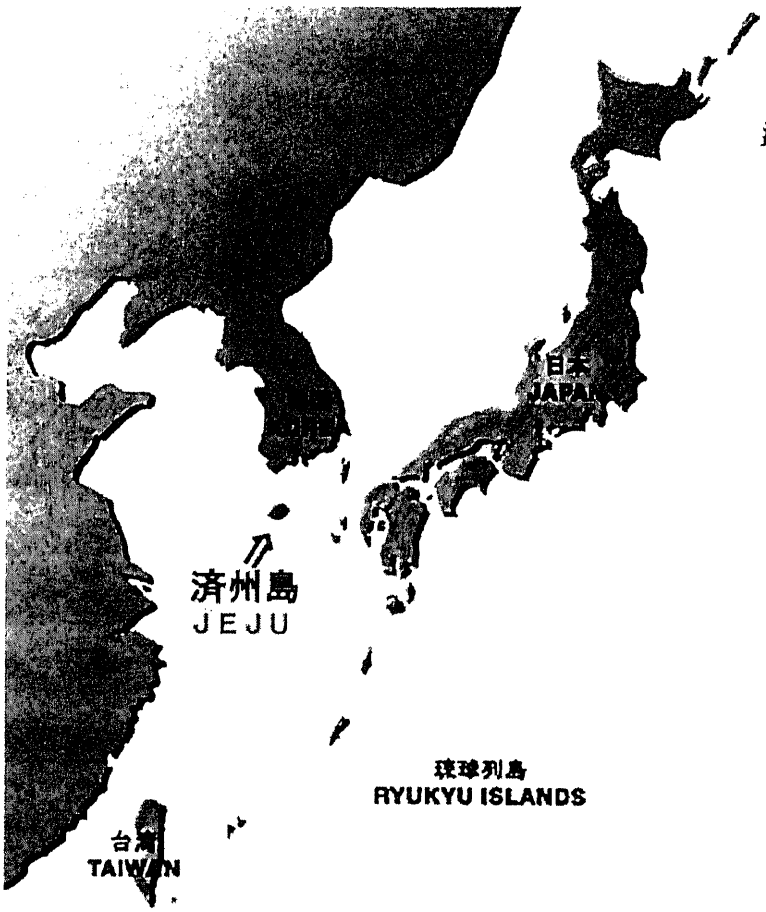
ヨンドンクッとは

16世紀前半に完成された『新増東国輿地勝覧』38巻「済州牧風俗条」には、済州島で二月朔日に迎神祭（ヨンドン祭）が行われていたという記録がある。今でも済州島の沿岸部では、毎年訪れる風の神・ヨンドン神に対する祭りが行われている。ヨンドン神は旧暦２月１日に牛島に入り、済州島全域を周り帰っていくと信じられている。人々は旧暦２月１日にヨンドン神を迎え、旧暦２月14日に送る。この送りのときにヨンドンクッを盛大に行う。海女達にとってヨンドン神は海産物のタネを蒔いていってくれるありがたい神であり、ヨンドンクッでは、龍王とヨンドン神に今年の豊漁を祈願し、海で亡くなった人々の冥福を祈る。済州島では巫俗は現在でも人々の生活に機能していて、ヨンドンクッの進行はシンバン（済州島の巫堂）が行う。

ヨンドンクッと海女

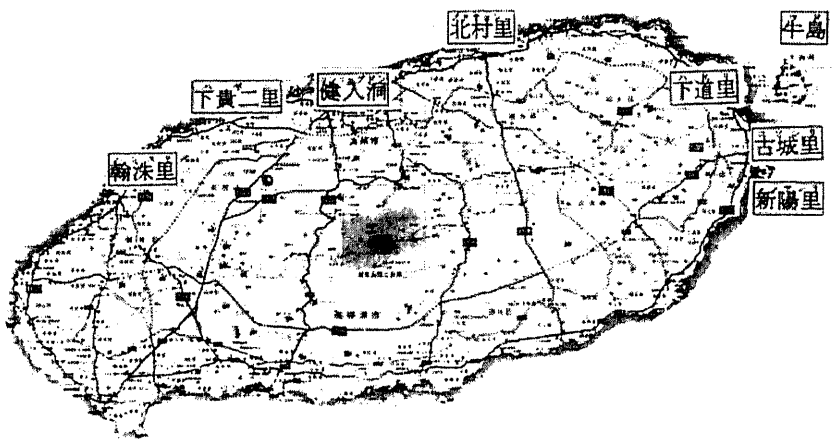
クッの主催者は海女、船主である。済州島では海女はチャムスと呼ばれ、チャムス会という海女の会を組織して仕事をしている。アワビ、サザエなどの海産物が日本などに輸出されるようになると、海女の収入が上がった。また日本に出稼ぎに行く海女も現れた。その頃は娘が３人いるとすぐ金持ちになるといわれ、海女の収入で財産を築くことができたという。しかし現在では海女の数は少なくなり、海女の高齢化も目立つ。

海女の仕事は季節・気候と密着している。海を生業の場とする海女にとって風の神であるヨンドン神は身近な存在である。また、海女にとって海の仕事は命がけであり、海女は海を管理する龍王神も大事にする。そのため、ヨンドンクッはヨンドン神の祭りであると共に龍王に対する祭りでもあり、また海で亡くなった家族達の慰霊も行われる。


日本
JAPAN
済州島
JEJU
琉球列島
RYUKYU ISLANDS
台湾
TAIWAN

済州島の位置

済州島図


牛島
北村里
下貴二里
城入洞
下道里
古城里
翰洙里
新陽里

1. 下道里（ハドリ）

（1）集落の概要

旧左邑に属する。約1千年前に、高氏、夫氏が移住定着した地といわれている。李朝中宗十年（1510）に要塞地に定められた。牛島に近いため、外国船がしばしば停泊するようになると、防護所も金寧からこの地に移された。

海岸沿いの半農半漁の村であり、7つの部落からなる。旧左邑の近海は寒流と暖流とが交わるところであり、各種の魚類、貝類、貝藻類が繁殖するのに適している。集落の入り口には石垣に囲まれた畑が広がり、湧き水による井戸がある。集落の中には石垣に囲まれた段々畑がある。畑では、麦類、イモ、大豆などが生産されるが、水田はみられない。集落の奥の高台に本郷堂があり、高台周辺には亡くなった人々の記念碑が並ぶ。集落の片側には観光客用のペンションが建ち、観光化にも力をいれているのがわかる。

（2）ヨンドンクッ報告

日時：2008年3月20日　朝からお昼過ぎまで

場所：海岸近くの石囲いのカクシダンの中で行われた。カクシダンには嫁の意味がある。カクシダンの前方に海女が作業中に使用する新旧ふたつの小屋（更衣室）が見える。

シンバン：下道里のシンバンの高福子氏、一人である。

《ヨンドンクッのおおまかな流れ》

1）シンバンは石垣の中央に座り、海女たちは左右に集まって座る。

2）主催者の名前の読み上げをしながら、シンバンは色紙を切って切紙を作る。となりに座る女性が切った紙を受け取りシンバンの前に並べる。

3）ビニール袋に入った米と名前を書いた紙を見て、シンバンは個人の米占いをする。

4）シンバンは中央で長い唱えごとをする。

5）シンバンは切紙を焼き、海に向かって泣きながら唱えごとをする。

6）シンバンは鶏の頭を叩いて地面にほうりなげる。

7）海女たちは供物を細かく砕き紙に包み海になげる供物を作る。

8）海女たちは供物を近くの海岸に流しに行く。

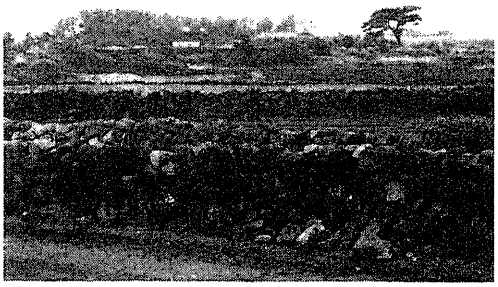
9）海女たちは石垣の中で持ち寄った食べ物を食べて、解散する。

畑には菜の花が満開で、風の強い寒い日に行われた。この集落では、他のヨンドンクッで行われたような、餅投げ、龍王道つくり、ソウゼェソリを歌う、種蒔き、種占い、船送りなどの儀礼はなかった。また、会場が野外の石垣の中なので、神名表や主催者の名前を書いた表の張り出しもなかった。儀式が終わった後、海女たちは見学者や報道関係の人を自分たちの座っているところに招いて持ち寄った食事をご馳走していた。

下道里の景観とヨンドンクッ



春：火山と石垣の中の菜の花



夏：石垣に囲まれた段々畑



カクシダンで行われたヨンドンクッ



運勢占いをするシンバン

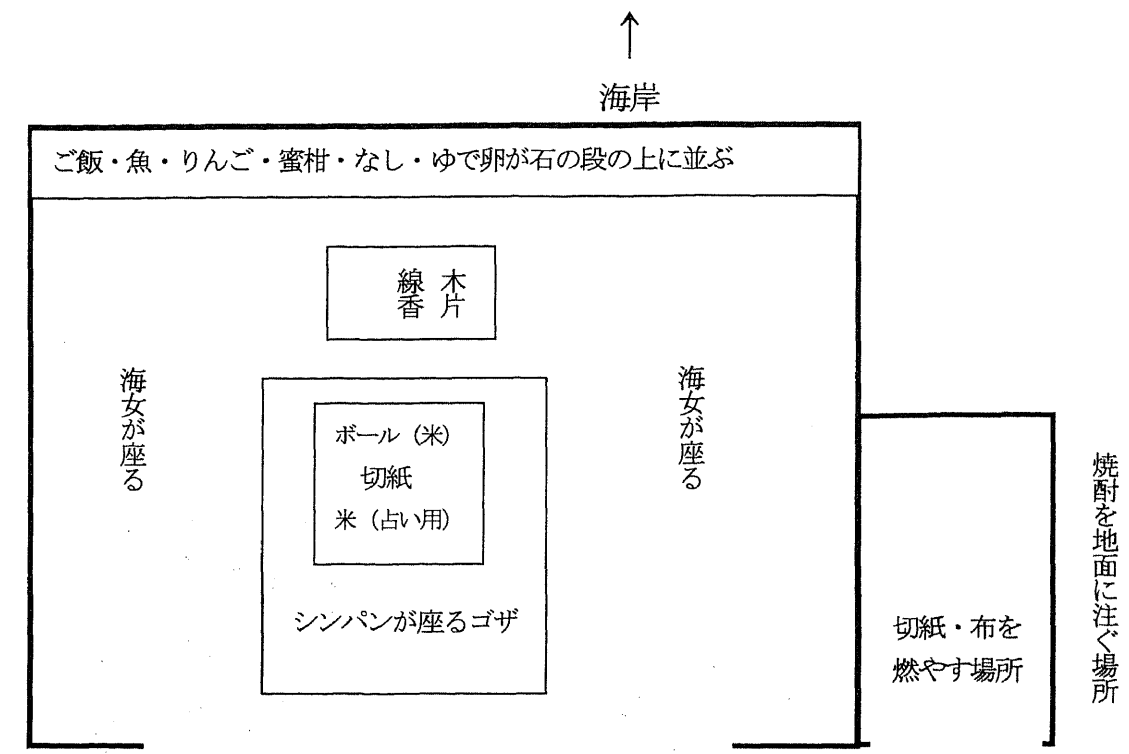


海に供物を投げる海女たち



厄払いの鶏を持つ

下道里ヨンドンクッ会場概念図



＊太線は石垣の囲い

（3）聞取り調査

①カクシダンの前の畑の夫婦



緑豆畑で話をしてくれる鄭さん

・時間：2008年８月20日、午前中約１時間くらい。

・場所：下道里のカクシダンの前の畑

・話者：夫は鄭さん（75歳：1933年生）
奥さんは高さん（74歳：1934年生）

・調査状況：畑仕事をしていた鄭さんは、私たちが挨拶をして日本人だとわかると、「大日本帝国、国民学校、国民学校で君が代を習った。５年生に日本から解放」と日本語で喋り、作業の時間を割いて夫婦で私たちの質問に答えてくれた。ただし質疑応答は韓国語である。

《内容》

・畑は今何を作ってるの？

米以外なんでも作るよ、タマネギとか。これは緑豆。

・下道里では海の仕事と畑でどちらが収入が多いですか。

農作業は一年中やるもんで、海は合わせて1ヶ月しかやらないけど、海の方が収入が多い。（海女さんは今少ないですか）今は少ないけど、みんな海の仕事はできる、習ってるから。若い人もアルバイトとして海の仕事をやる人がいる。収穫量は200kgの海産物が獲れる。今、うちの奥さんは畑仕事をやってるけどずっと海の仕事もやっていた。俺は若いときは勤めていた。嫁とか娘は特に海の仕事をやってないけど、たまに週末とか休みには海の仕事をやる。

・噂だと済州島の男性は楽な生活ができるとか。

そんな噂もあるけど、「人はソウルに行かせて、馬は済州島に行かせる」という言伝えもある。今はソウルの人が済州島へ来て仕事をしていて、済州島の土地の半分位はソウルの人が持っている。

・カクシダンはいつできました。

昔からカクシダンというけど位牌もないし何もない。昔、クッが上手なシンパンがいて、あそこでクッをやった。カクシダンができたのは、大昔、自分の生まれる前。

・この石垣（畑の石垣）はいつごろ作られましたか。

済州島ができてから作りはじめた。中国から、男性100人、女性100人が流されて漢拏山へ来た。100人が日本に行ったが、高、夫、良という男性3人が、女性を見つけて済州島へと戻ってきて、結婚して済州島の人の祖先になった。

・他に堂はないの。

あるよ、下道里の本郷堂は今もある[1]。そこでクッをやってる。年何回か必要とする人がいればやる。だいたい正月とか収穫の時期。（これから何か祭りはありますか）これからは10月12日に堂祭（タンジェ）をやる。それ以外は全部終ってる。正月は15日にやりたい人がご飯と餅を持っていって、「私たちを守ってください」とお祈りをする。シンバンは呼ばない。本郷堂にもカクシダンにも行くが、最近あまりやらないな。（いつからやらなくなりましたか）だいぶ前からだな。（迷信打破運動の頃、朴大統領の時期ですか）その頃からやらなくなって、全斗煥大統領の時にやめた。その頃からそういうことに神経を使わなくなった。

・ヨンドンクッはいつからまた始めましたか。

自主的にやめたけど、国から指定されてやることになった。国は子孫に見せるための教育だと考えている。本当のヨンドンクッはもうこの村にはない。みせるだけのものだ。（今のヨンドンクッは昔とどう違いますか）別に変わったことはないけど、参加する人の数が少なくなった。だから人数が違ったことによって、クッの長さが変わっただけ。昔盛んだった時はやった。7つ部落が集まって盛大にヨンドンクッをやっていた。それからは分かれて部落ごとの堂でやった。（7つの部落がヨンドングッをやったのですか）ヨンドンクッはやらなかったけど、2月13日に龍王マジをやった。（その日はヨンドン送別祭じゃないですか）ここで

[1]村の守護神を本郷神といい、この神を祀ったところが本郷堂である。

ヨンドンのみちならし（キルCHEUM)をするとSHINCHUNKUMORIに行って牛島まで行く。牛島は14日にやる。（下道里ではヨンドン神の迎えの会はやりましたか）別にやらない。

・下道里の７部落は龍王マジをするんですか。

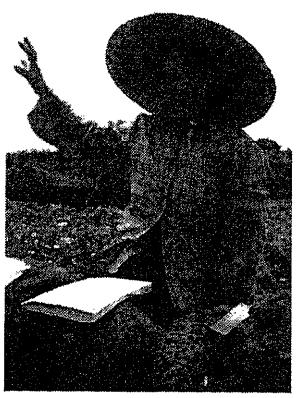
７部落はいっぺんにできるわけではないから、10日から13日の前に全部終って、そして13日はカクシダンをやる。

・下道里のシンバンは家族もシンバンでしたか。

お母さんもシンバンだった。（シンバンの占いは当たってますか）半分位。（そのシンバンは一人でまわりますか）一人じゃ無理だからソワピョンジェにいるシンバンを呼ぶ。

・厄払いは何をしましたか。エンマギですか。

ああ、エンマギ？それは鶏の首を切って、土に埋めて身体は持ってって食べる。（鶏をどうやって切りますか）刃物で頭を。頭だけを埋めると全体を埋めたと同じだから。



奥さんの高さん

・昔、ベバンソン（藁船送り、舟送り）をやりましたか。

昔はベバンソンもやって、粟の種蒔きをして、海に投げた。豚の頭を少し切って、船に乗せて流した。昔はこっちの下道里カクシダンが一番大きい堂だから盛大にやったけど、今は自分の部落で簡単にやる。種蒔きはシンバンがやったよ。昔は粟がたくさんあって2升位撒いたけど、今はやっていない。船が出るとき全部やった、ソウゼッソリもやった。（龍王道作りはやりましたか）昔は龍王ダリをやったけど、今はやらない。

・チルモリダンは見たことありますか。

チルモリダン!!!　何をしに行きますか。私たちはここでやってるのに何でチルモリダンを見に行くの。昔はチルモリダンが一番規模が大きくて、２番目は下道里でした。

・ヨンドンクッはいくらぐらいかかりますか。

規模を大きくすると１千万ウォンかかる。ここは費用はそんなにかからなかった。１世帯ごとに１万ウォンか２万ウォンぐらいを出して、また参加したとき最低１万ウォンを持ってきた。それがシンバンのお金になる。それから占いをするとき気持で１万ウォンぐらい出す。

・シンバンは全部でどれぐらい持って帰りますか？

約百万ウォンぐらい。（漁村会はお金を出しますか）差し入れぐらい。

・男の人はヨンドンクッの時に何をしてるの。

手伝いの運び屋さん。

・この村でヨンドングッに反対する人いますか。

いません。（お寺にもいきますか）行く（お寺では反対されないんですか）。別に。（この辺のお寺は）この辺のお寺はプインサ、ヨングンサ（龍宮寺）。

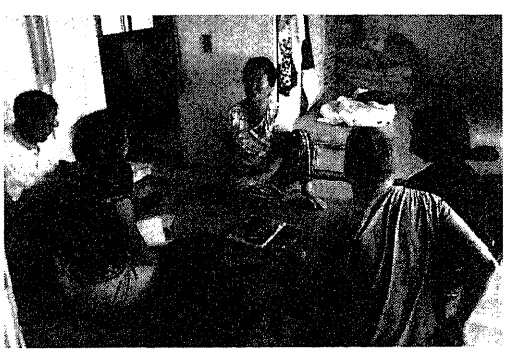
②下道里のシンバン・高福子氏

・日時：2008年８月20日、午前11時頃から約１時間
・場所：高シンバンの家
・話者の概要：62歳丁亥生。母親も下道里のシンバンだった。
・特記事項：ヨンドンクッの時の写真をプレゼントした。インタビューの後で、下道里の本郷堂を案内していただいた。

《内容》

・どのようにしてシンバンになりましたか。

母親がシンバンだった。10歳の時に母がソルセ（打楽器）を私にやらせてみたら上手にできた。それを見た母は「やっぱりお前はシンバンになるんだろう」と言った。



高シンバンの家での調査

[2]シンバンとして認められるための儀礼であり、数日の間先輩シンバンを招いて済州島の巫儀をすべて演じてもらう。

14歳の時から母についてクッに参加した。21歳の時結婚してクッをやめて、普通の主婦になった。しかし31歳の時離婚してシンバンの道に入った。その時から下道里の本郷堂を担当することになった。（シンクッをやりましたか）33歳の時にやった[2]。７人のシンバンが15日間かけてやってくれた。（シンクッは費用がかかったでしょう）費用はボランテアでやってくれた。

・ヨンドンクッの迎えの儀礼について。

昔はヨンドンハルバンは正月の15日に済州島に来るといった。デジョンミョン、コモンジリ、昔はウコモンジルといって、ソッチョンに行くが、済州島を回って、正月の末日に済州市に来て、１日になったらヨンドンクッをやる。アンテッククッをやるときは、その家の祖先とヨンドン神のための二つのものを上げる。済州市では昔２月１日にヨンドン迎えクッを石垣でやった。２月の14日にはヨンドン送別祭をやった。（正月15日に来て、14日に帰るってことですか）昔、正月15日からヨンドン神がくることは聞いたけど、みんなはそれを知らない。迎えのクッはその時にやらないで、２月１日に済州市でやった。他の村は12日、13日にやる。（それは送別祭ではないですか）歓迎祭と送別祭を一緒にやった。済州市だけが違う。13日に歓迎祭も送別祭も龍王祭もやる。（高シンバンのお母さんは１月15日にやりましたか）いいえ、やらなかった。でも２月13日にチャムスクッをやった。昔はチャムスクッを各村でやっていたが、ある時期、３部落で一緒にやることになった。昔は海女が多かったので、他のシンバンを招いて、３～４日間もやった。ヨンドン神が

島を出る前にチャムスクッまたは龍王クッをやった。

・チャムスクッについて

昔は正月１日から済州市の海女がチャムスクッをやった。昔は漁師と海女の数が多かったから、２月13日にチャムスクッを年１回やった。タンクッは、正月12日、２月12日、７月14日、10月12日と１年に４回やった。ナンド里（卯島）にはハルミ堂があった。（この部分は通訳を担当した金泰順によると、特に聞取りにくかったという）。

・龍王クッはやりますか。

龍王クッは海辺の更衣室でやる。天気がよかったら外で、悪かったら更衣室でやった。

・ヨンドンクッでは鶏を海に流しましたか。

地面に叩きつけて持って帰った。悪いことがある時は穴を掘って埋めます。厄払いをして下道里の７つの部落に災いがないようにする。

・龍王道を作ることによって、ヨンドン神と龍王が一緒に来るのですか。

そうです。昔はヨンドン様と龍王神が一緒にくる。

・ヨンドンクッをやっている村は。

金寧は３月18日にヨンドンクッをやる。北村里は13日にやる。村ごとに堂があってヨンドンクッをやるのが一般的です。（ではなぜチルモリダンのヨンドンクッに参加するのですか）。国指定ですから。

・迷信打破運動によって変化がありましたか。

迷信打破運動によってクッが中断されたが、安シンバンがクッを復活させた。文化財になることになって、「学生」達を教えたので、私たちも集まることになった。昔からチルモリダンは男性シンバンが継いでいて、金允洙氏がチルモリダンのシンバンになった。それで専門の専修生になった。チルモリダンは毎月28日に集まる。

・種占いについて

自分たちが種占いをすると、漁師たちはそれを参考にして判断する。本当に神がいるかどうか、当たるかどうかは保証できない。

・山のほうでヨンドンクッをやっていますか。やっていましたか。

やらない。

・ヨンドン神を呼ぶときは必ずポンプリをやりますか。

ヨンドンポンプリはない。

・韓国の内陸部でクッをしますか。

私たちは内陸でクッをしていない。

（このあと高シンバンの庫房に祀られた巫具を拝見した）



高シンバンの庫房に祀られた巫具

2. 北村里（フクチョンニ）

（1）集落の概要

朝天邑に属する。山が海岸に迫っている坂のある大きな港町である。漁業が盛んな町で、海女も多いが、漁師は夜はイカ釣り、昼は雑魚を釣る。イカは値段がいいという。コンクリで固められた港には船が何艘も泊まっている。漁業会館の近くの海岸に水の湧く井戸があり、昔はこの集落の主要な水源であったと考えられる。この集落の本郷堂は海岸近くの高台にある。本郷堂より海よりの方に、昔、見張り台に使用された石積みの塔が残っている。

（2）ヨンドンクッ報告

日時：2008年3月20日　朝から夕方まで（見学は午後からした）

場所：北村里の漁業組合の建物の中で行われた。

シンバン：チルモリダンに所属するシンバンとソミ（男性1名・女性2名）によって行われた。そのためか、ヨンドンクッの主な流れはチルモリダンと同じである。

《ヨンドンクッのおおまかな流れ》

漁業会場の建物には竹竿が括り付けられ、オバンカッキ（五方各旗）が翻る。室内の正面祭壇には、色鮮やかな切り紙が飾られ、招聘される神名を列記した紙、主催者となる海女と船主の名前と年齢を書いたヨルミョンチ（列名紙）が張られ、果物などの供物が並べられる。

1）クッを行う理由を述べ、1万8千の神々を招待し座らせる（午前中で拝見できなかった）。

2）シンバンは何度も供物の大きな餅を高く投げる。

3）シンバンは神刀で居並ぶ海女の体の厄払いをする。

4）龍王とヨンドン神が来る龍王道を作る。一枚の布を道に見立てまわりを何本もの笹竹で囲い、笹竹の先を結び、切った色紙を飾る。シンバンは道に散乱する海草を掃除し、海女たちは道に置かれた石を運び出し道ならしをする。龍王道ができたら龍王門が開いたかどうかシンバンが占い、開いたら一本の笹竹の結び目を解く。占いのたびに海女はシンバンにインジョン（人情、こころざし、お金）を渡し、全部の笹竹の結び目を解く。

5）アワビ、サザエの種に見立てた大豆をシンバンが蒔いて収穫のある場所を占う。

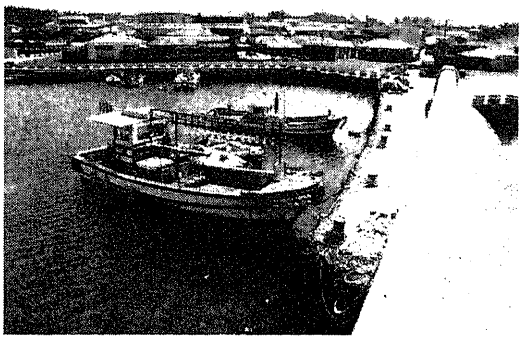
6）村の厄払いと各人の運勢占いをする。各自、持参した食べ物を細かく砕き紙に包み海に投げる供物を作る。

7）種播き役の海女を取り囲むようにして、海女たちは楽しそうにソウゼェソリを踊る。

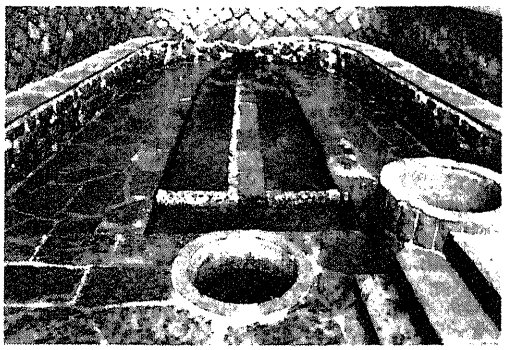
8）種播き役の海女を先頭に海女たちは踊りながら海岸に出て行く。海岸で種播き役の海女は周囲のものから（漁村会の会長、報道陣、観光客など）インジョンを貰い海岸に種を播く。

9）海女や漁村会の会長が船に乗って、供物と供物を載せた発泡スチロールの船を海になげいれる。他の海女たちは紙に包んだ供物を海岸から海に流す。

北村里の景観とヨンドンクッ



北村里の漁港



海岸にある井戸（水が湧き出ている）



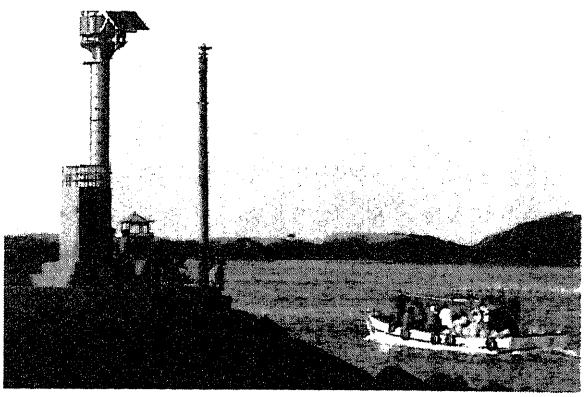
キメ（奥）とシンバンと竜王道（手前）



クッの最後にソウゼェソリを踊る海女たち



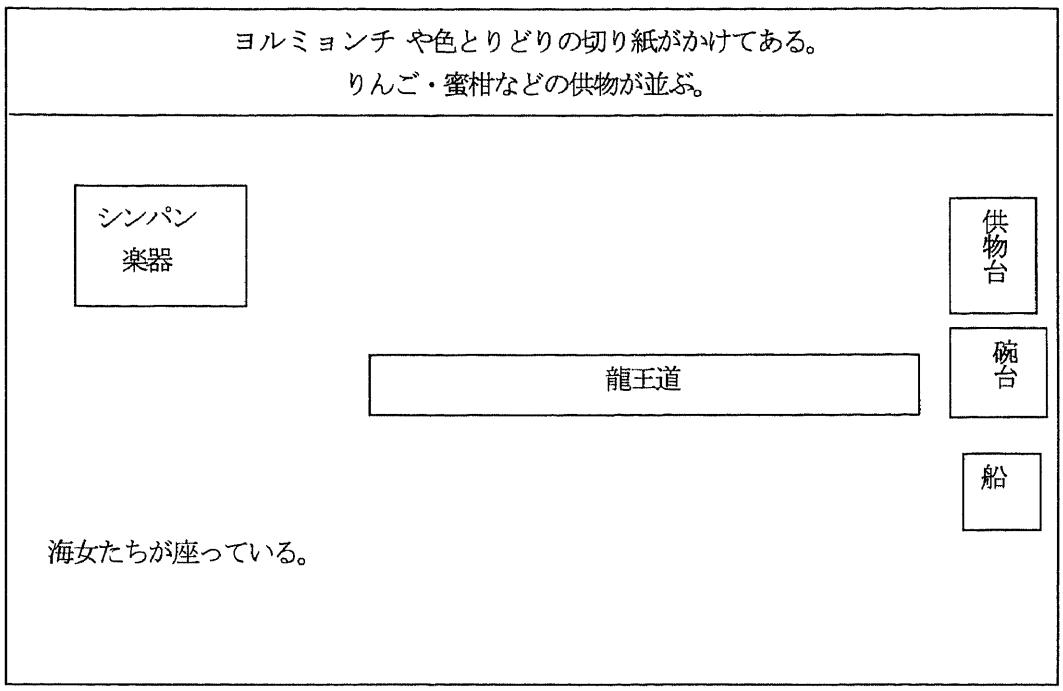
海岸で種蒔きをしながら踊る海女



船に乗って供物と発泡スチロールの船を流す

北村里のヨンドンクッ会場概念図

↑
海



＊漁業組合の建物の中で行われた。二階に部屋があり、食事ができるようになっている。

3）聞取り調査

・北村里海女会長：ムン・ヨンウオル氏
・日時：2008年８月22日、午後
・調査地：ムン・ヨンウオル氏宅
・話者：1954年生まれ

《内容》

・昔はヨンドンクッをどこでやりましたか。

昔から盛大にやっていたが、一時期、５年ほど簡単にやった時期もあった。前は海女の更衣室の前の広場にテントを掛けてやった。不思議なことにヨンドンクッをやる時は雨の日が多かった。雨が降るか風が強く吹いた。今の農協のところに小さな建物



海女会長ムン・ヨンウオル氏（中央）

があったので、雨が降るとその建物の中でやった。漁村会館の建物ができてからはそこでやるようになった。北村里は本郷堂があるがタンメンシンバンがいなので、済州市にシンバンを依頼しヨンドンクッをやってきた。本郷堂の祭りは年２回で、１月13日の新年祭と10月18日の収穫感謝祭。

ヨンドンクッの費用は150万ウォンかかる。シンバンは３日前から準備を始め、キメは当日の朝持ってきて飾る。当日、シンバンはインジョンを50万ウォンくらい貰う。海女の種の籠に貰ったインジョンはチャムス会の収入にする。

・クッのお膳立て（供物）はどうしますか？

クッのお膳立ては各家ごとにする。ただし４等親以内の親戚に不幸があった場合は、昔は３年間は参加できなかった。現在は２年間。ただしクッを見ることはできるが、チョガムゼ（神招き）の時は参加できない。海女の会長の任期は２年で、私は現在２年目になる。

・ヨンドンクッの費用の出し方はどのようにするのですか。

ヨンドンクッの主催者は海女。チャムス会の会員１名が200万ウォンを出して、全員の海女が獲った海産物をすべて買い上げて市場に売り渡す。その利益をチャムス会に入れ、元の200万ウォンを出した会員に返す。そのお金はどんどん貯まるが、リスクも負担する。その中からヨンドンクッの費用150万ウォンを出す。そのお金は１週間の作業日の前に払う。

・海女が参加する他のクッはありますか。

ありません。

・海女の仕事について。

現在、海女の数は150人位。最高年齢は84歳、最年少は35歳。漁師は20人くらい。船は10隻。昔は女が10歳位になると母親と一緒に海で潜ることを習った。私は13歳から潜った。ヨンドンクッの主催者は海女だが、その基本費用はチャムス会のお金でやる。約150万ウォン。海に潜る日は月２回、旧暦７日から15日と22日から30日。ただし新暦８月の１ヶ月間は産卵期であり潜ることは禁止されている。

・チャムス会に入る資格は。安全のためですか、管理のためですか。

北村里の住民のみで入会金はなく、入会すると身分証明書が発行される。

・北村里の海女はみんなチャムス会に入っていますか。

強制的に入る。

・ここの海女の数は何人ですか。アルバイトの海女はいますか。

150人くらい。アルバイトはいない。

・ヨンドンクッではお膳がたくさん並んでいたが何人くらいの海女が参加したのですか。

200人くらい参加したこともあったが、今は20～30人位の参加者。

・ベパンソンについて。

北村里は昔から一隻の船を海に流す。昔は小さい旗を船に刺すためトクソで作ったが、今は発泡スチロールで作る。

・シンパンの種占いは当たりますか。

約８割当たる。（種はなんですか）大豆です。

・海女の種播きはどうやったのですか。

海から遠くに播いた方がよくとれたのでそれ以降そうするようにした。

・種播きの時の海女2人が腕と足に布を巻いているのはどうしてですか？

昔からこのような形でやってきた。作業する姿を現している。

・チアレムについて。

供えた供物を紙に包み海に流す。その数はヨンドン大王、龍王、海で死んだ人、その人の死んだ家族の分を包む。供物は家に持って帰らないで全て海に投げ込む。

・海女の仕事は大変だと思いますが、最近、海で亡くなった方はいますか。

いない。

・厄払いについて。

厄払いは最後に行う。鶏の首を切って殺し、地面に投げつけて、最後にはシンバンが持って帰る。その鶏は村全員の厄払いのためにする。

・ソウゼェソリで歌う歌は決まっているのですか。

決まっている。ソウゼェソリは同じ歌を繰り返し、シンバンが歌って、相の手（おはやし）を海女が入れる。

・この村のソウジェソリと他の村のソウゼェソリは同じですか。

よそは行ったことがないからわからない。

・海女の寄り合いみたいのはヨンドンクッ以外にもあるんですか。

母の日に集まって、民謡ではなくて演歌を歌ったりする。（そのときシンバンは来ますか）。海女のみでシンバンは来ない。

・ヨンドンクッのとき男の人たちは何をしていますか。

見ることは見るがあんまり関わらない。反対もしない。

・ヨンドンクッの正式な名前はなんですか。

ヨンドンクッと呼んでいる。

②北村里の海岸の３人の海女

・時間：2008年８月22日、夕方

・調査地：北村里の海岸に休憩所（ベンチ）があり、2人の海女はそこに座って密漁者の見張り役の当番をしていた。最初は2人だったが、ヨンドンクッのときの写真をさしあげたら、写真に写っているもう一人の海女を携帯電話で呼んでくれた。

・調査状況：私たちのヨンドンクッの写真を見ながらソウゼェソリをはじめ民謡や子守歌を歌ってくれるなど楽しい雰囲気で行われた。

・話者：李玉女（70歳：11歳から海女になった）李スンイン（72歳）　林徳子（77歳）

《内容》

・何年くらい海女の仕事をしてますか。

60年くらい。

・よそに行って海女の仕事をやったことはありますか。

ない。

・農業と潜るのではどちらが大変ですか。

農業。（潜るのは大変じゃないですか？）



質問に答えてくれた３人の海女の方々

潜るのはつらいけど昔からやっていることだから。畑の仕事は、草取りしたり、肥料やったりで、その日一日では終わらない。

・今のヨンドンクッは昔と変わりましたか。

昔からヨンドンクッかチャムスクッをやっていたが、4.3事件以降は5年ほど生活が苦しくて簡素化した。再び盛大にやっている。15年位前から報道関係が来るようになった。

・前はヨンドンクッをここでやったんじゃないですか。

ここでテントを張ってやった。ここは昔は砂浜だった。

・（手前に見える島について）ヨンドンクッのとき、あの島を一周して船を流しましたね。あの島の名前はなんですか。

島の名前はタレドといい、ベバンソンでは島の向こう側やここの海岸から牛島の方向に船を流す。

・昔はヨンドンクッの種蒔きで海に入りましたか。

入らなかった。

・ヨンドンクッのソウゼェソリのときすごくいい顔をしていましたね[3]。楽しかったのですか。

とても楽しかった。

・海女の服装はいつごろから変わりましたか。

ゴムの服が43歳のとき、ゴムの足は44歳の時から、その前はゾクサム（普段着）で潜った（李スンイン：72歳）。

[3]クッのソウゼェソリは、シンバンが即興的な歌詞で歌い、参加者たちが決まった歌詞を繰り返す形式で歌われる。歌の内容はクッを行うことによって、神が喜び、シンバンも喜び、そして皆も喜ぶという内容である。

3．健入洞（チルモリ）

（1）集落の概要

健入洞は済州市に属し、漁業と商業の町である。海には大きな船が泊まり、海岸付近には海鮮レストランが並び国際観光地の様相を呈する。健入洞の本郷堂のあるところがチルモリと呼ばれていた。チルモリの地名は龍の頭のような石が7つあったことに由来するという。以前、ヨンドンクッは海岸近くで行われていたが、現在では丘のサラボン公園内で行われる。

（2）ヨンドンクッ報告

日時：2008年3月21日、朝から夕方まで

場所：サラボン公園内のチルモリダン

シンバン：金允洙氏をはじめとしたチルモリ保存会に属するシンバンとソミ。

《ヨンドンクッのおおまかな流れ》

健入洞のチルモリダンのヨンドンクッは1980年、国家指定重要無形文化財第71号として指定された。祭り当日は会場に大きな竹竿が立てられ、竹竿には神々がやってくる際の目印となる旗・オバンカッキ（五方各旗）が翻る。正面には屏風が並べられ祭壇が作られる。正面祭壇には、色鮮やかな切り紙が飾られ、招聘される神名を列記した紙、主催者となる海女と船主の名前と年齢を書いたヨルミョンチと寄付者名が張られる。

1）クッをやる理由を述べ、1万8千の神々を招待し座らせる儀礼。

2）様々な神々をもてなした後に本郷神を迎え入れる。本郷神が着座すると、ソウジェソリの歌に合わせて小巫も海女も愉快に踊りだす。

3）餅の投げ合い、地蔵ボンプリの詠唱。

4）龍王とヨンドン神が来る道（龍王道）を掃除し、ならして迎える儀礼。

5）アワビ、サザエの種に見立てた粟を蒔いて収穫のある場所を占う。

6）村の厄払いと各人の運勢占い。

7）ヨンガム神（トッケビ）が登場して、供物を載せた藁舟を持ちソウジェソリを踊る。

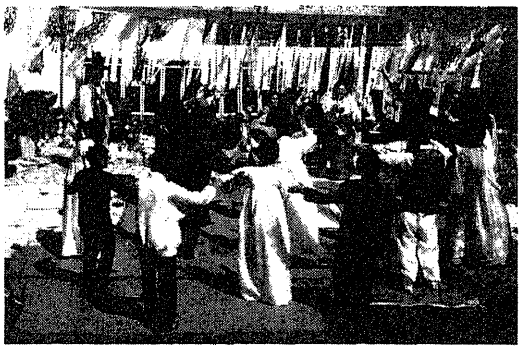
8）全ての神を見送る儀礼。

9）港から船に乗って、供物と供物を載せた藁舟を海上に送る。

2004年からヨンドンクッ（ヨンドン神迎えクッ）はチャムス会と水産業協同組合の共同で行なわれることとなった。それ以前は、水産業協同組合は豊漁祭を主催していた。共同で行うようになってから、鶏を殺すことをやめ、かわりに海女と船に関わるトッケビの現われるヨンガムノリが行なわれるようになったという。

ヨンドンクッの正面祭壇となる場所には、3つの石が並んでいる。ヨンドン大王と龍王神（海神船王・霊登大王　神位と書いてある）、中央がチルモリダンの本郷神とその夫人、東がナムタンハルバン、ナムタンハルマンである。

チルモリダンのヨンドンクッ



ソウゼェソリの歌に合わせて踊る



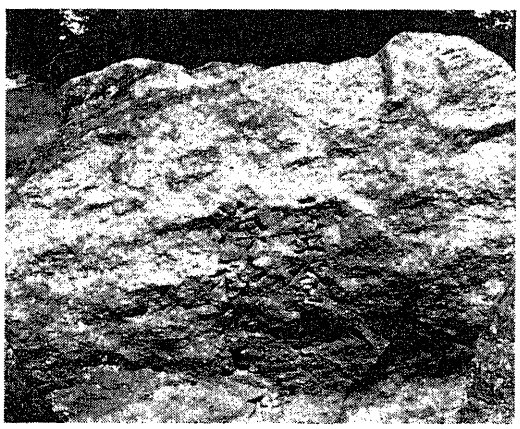
シンバンの歌に泣く海女たち



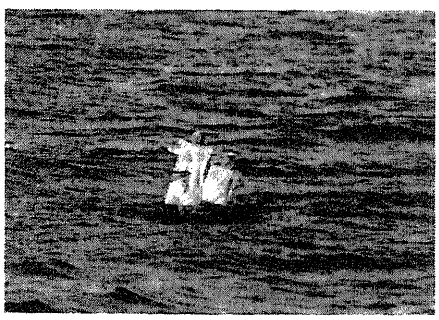
ヨンガム神（トッケビ）登場



本郷神を迎え入れる金シンバン

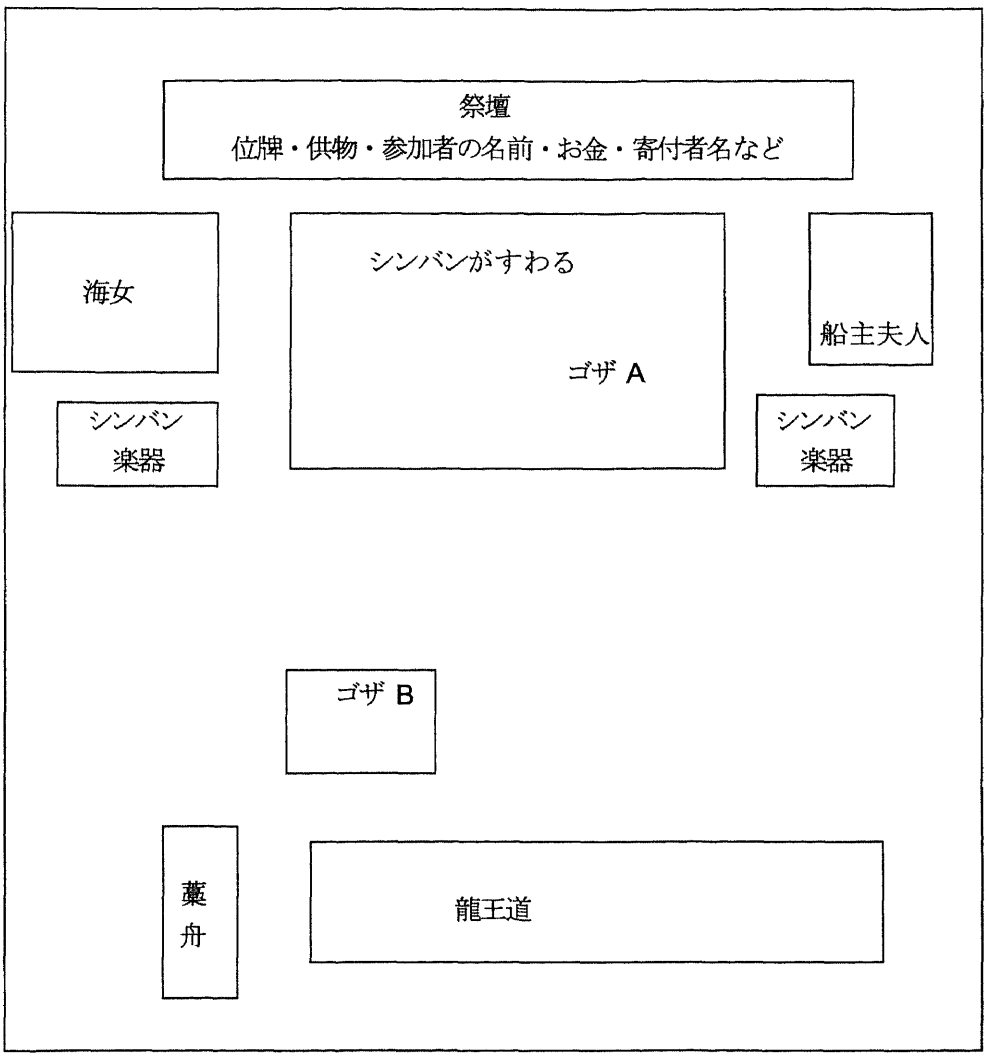


海神船王・霊登（ヨンドン）大王　神位の碑



流された藁船

チルモリダンのヨンドンクッ会場概念図（サラボン公園内）



＊ゴザＢではシンバンが本郷神招きなどを行う。

（3）聞取り調査

①金允洙シンパン

・日時：2008年８月23日　午前10時半ころより約１時間

・場所：済州市サラボン公園内無形文化財保存会館ヨンドンクッ保存会事務所

・話者：芸能保有者。世襲４代目であり、1945年生まれ。

《内容》

・以前は海岸でやっていたようですが、そこが堂だったのですか。

チルモリダン（堂）でした。

・現在の公園内の石は古いものを移動したのですか。それとも新しいものですか。

あの石は新しく作った石です。

・石にはヨンドン神の名前もありますが、ヨンドン神もチルモリダンの神様の一人なんですか。

そうです。

・堂神ならいつもそこにいるわけでしょ。ヨンドン神はなぜ行ったりきたりするのですか。

ヨンドン神はずっとここにいるわけではない。１年１回やるから、毎年書くのは大変なので石に名前が書いてある。

・ヨンドン神の迎えの儀礼はやらないのですか。

漁業組合の事務所でやる。

・ヨンドン神は送られたときどこに帰るのですか。

カンナムチェンジュ国

・ベパンソンの船はどちらの方向に流すのですか。

牛島方向に行かせる。

・クンクッの時、１万８千の神を呼ぶが、そのときヨンドン神は呼ばないのですか。

呼ばない。２月の時期だけは一般的な家庭のクッでもヨンドン神を呼ぶが、その時期以外には呼ばない。

・済州島の神様の中でヨンドン神のような神は他にいないのですか。

ヨンドン神だけ。

・昔からヨンドンクッには本郷神迎えが入っていたのですか。

昔からやっていた。

・ヨンドン神を迎えるのになぜ本郷神を迎えるのですか

本郷神とヨンドン神が和解しなければいけないから。

・ソクサルリムのあと、ソウゼェソリが感動的でしたが、たくさんの参加者が一緒に踊るやり方は必ずクッの中でやるんですか。

そのつどです。

・ソウゼェソリをやるときの歌（歌詞）は決まったものですか、それとも変わるのですか。

そのつど少し変わる。

・途中からリズムが早くなりましたが、場面を区切ってやっているのですか。

盛り上がるから。

・やり方はチルモリのソウゼェソリなんですか。

本当はそれをやるべきだが、シンパンの能力によってやったりやらなかったりする。

・ヤクバライとして鶏を殺すこと（エンマギ）について。

大昔はやらなかったが、やったことはある。しかし殺すことはよくないのでやめた。

・ヨンドンクッは豊饒を願うのに、なぜ最後にヤクバライをするのですか。

一年間、無事にすごすためにこれをやる。

・クッの雰囲気で衣装を変えていましたね。最後は普段着でしたが、その意味はありますか。

意味はない。体をらくにするため。

・ナカシリ（餅投げ）のとき、後ろに餅を投げているのは神様を喜ばせているのですか、それとも占いなのですか？

神様が喜んでいるのかどうかを落ちた形で占う。

・餅を落とした意味はあるんですか。

ない。

・ヨンドンクッは迷信打破運動の前と後でどう変わりましたか。

大体同じです。

・国指定によってヨンドンクッはどう変わりましたか。

迷信打破運動の時代は公にできなかったが、国指定になってからは自由にできるようになったのが大きな違い。

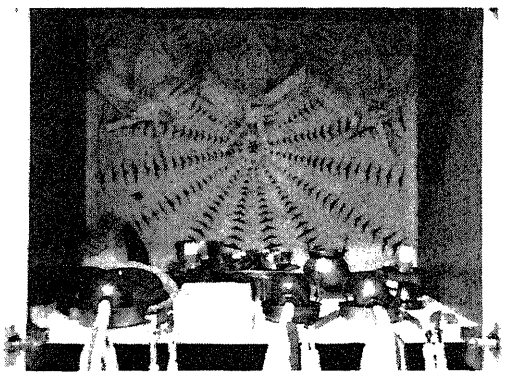
・国指定によって観光化されているところもあるのでは。

そういう目的ではないので、結果的にそういうところはない。(国指定によってプレッシャーはないのですか)。昔の伝統をやりなさいという指導。

・済州島のシンバンは何名ですか。そのうち先生の教えている人は何割ですか。

約150人くらい。(シンバンになるには資格認定があるんですか、会員になる資格は)。習いたいとやってきても、人物を見て判断する。

・それまでのクッのやり方とヨンガムノリは違うような気がしましたが。



金シンバンの巫具

ヨンドン神にヨンガム(トッケビ)が付いてくるから、ヨンガムノリがある。

・それはいつからですか。

昔からある。約20年前からトッケビが出てきた。

・なぜトッケビがベパンソン(藁船送り)のとき藁舟をもっていくのですか。

トッケビが船を持っていくことによって一緒に出て行きなさいという意味。

・あれはトッケビのお土産でヨンドン神のお土産ではないのですか。

トッケビであれ、ヨンドン神であれ、あれはお土産。

・北村里では船は1艘だけだったがここはなぜ多いのですか。

本当は1艘だが、チャムス会の船が沢山あるので個別にやってほしいという要望がある。

・昔は、ヨンドン堂にシンバンが100人くらい集まってやったというが。

そんなことは聞いたことがない。

・山間部の村でヨンドンクッをやっている村がありますか。

ない。(山間部の村ではどんなクッをやっているのですか) タンクッ。

(このあと金シンバンの庫房に祀られた巫具を拝見した)

②民謡専修助教キム・ヒョンヒィ氏

・日時：2008年8月23日　午前11時半頃からお昼過ぎ頃まで

・場所：済州市サラボン公園内ヨンドンクッ保存会館に隣接する済州島無形文化財専修会館

・状況：金允洙シンバンとの面会を終え外に出たところにチャングの音が響き伝統音楽が聞こえてきた。その教室を覗き民謡を聞かせてもらううちに民謡のソウゼッソリがあることを知った。そこで金さん姉妹から聞き取りが始まった。昨年亡くなった彼女たちの母親は民謡の伝承者として済州島の無形文化財であった。現在は姉妹２人が専修助教になり専修生達に教えている。

《内容》

・ヨンドンクッのソウゼッソリと今歌った民謡のソウゼッソリとは同じですか。フリョン（繰り返し囃子）は同じように聞こえますが。

巫俗ソウゼッソリと民謡ソウゼッソリがあります。民謡で歌うソウゼッソリとシンバンが歌うソウゼッソリは違います。民謡のソウゼッソリはシンバンのソウゼッソリをわかりやすくしてあるのです。フリョンは良く似ていますが少し違います。

・民謡のソウゼッソリの歌詞はいつも同じですか。

ソウゼッソリは昔から現在まで唄われています。ソウゼッソリの歌詞の内容は決まったものではなくリーダーが先唄をして皆が繰り返しを唄う形式です。

・民謡のソウゼェソリはいつ歌いますか。

ソウゼッソリは病院や医者が無い時代に、医者の代わり、薬の代わりになりました。済州島民の病気の原因は心の恨みで病気になり、海辺でソウゼッソリを皆で唄って治る場合が多かったと聞いています。済州島の民謡を伝え、教えたお母さんからソウゼッシリは心の恨みを表わしていると聞いています。

・民謡のソウゼッソリをどこで習いましたか。

お母さんは８歳から祖父に教えてもらったそうです。４.３事件の時からその恨みを唄に昇化したそうです。昨年お母さんは亡くなりましたがこのＣＤには民謡のソウゼッソリが入っています。今民謡教室の皆で歌ったソウゼッソリはお母さんから私たち姉妹が引き継いだものです。このようにして済州島の民謡をみんなで引き継いでいます。

・ソウゼッソリを唄う時には皆が踊りを踊るのですか。

集会などでソウゼッソリが歌われますが必ずしも踊るわけではありません。



済州道無形文化財伝授所で歌う皆さん

4. 古城里（コソンリ）

（1）集落の概要

城山邑に属する。城山邑の中心でありひとつの商業圏を形成している。農業も盛んでミカン栽培が主な生業だったが、現在はミカンが余っているので、補助金をもらってミカン畑を減らしている。海女の収入とミカンではミカンの方がいいという。牧畜も行っていて、海岸近くの林では馬を飼っている。以下、ゴマの収穫をしながらお話をしてくれた夫婦によると（夫人は海女だという）、古城里、新陽里では海女は700人くらいいるが、海女の高齢化が進んでいて、若い海女では45歳の海女が２、３人いるだけだという。海女のアルバイトはいない。古城里ではヨンドンクッの迎えはやらないで送りだけやる。正月にタン（本郷堂）でタンクッをやるが、タンは寂れているという。

近くに見える城山日出峰は182メートルの奇岩絶壁に囲まれた約３万坪の噴火口を持つ巨大な玄武岩であり、世界遺産に登録された。城山日出峰周辺は観光客のための観光飲食店街になっていて、民宿も多い。

（2）ヨンドンクッの報告

日時：2008年３月22日　朝７時頃から準備を始める。

場所：世界遺産の日出峰が見える海岸でテントを張って行う。

シンバン：男性、女性のシンバン１名ずつ。残念ながら、このお二人からはお話がうかがえなかった。

《ヨンドンクッのおおまかな流れ》

早朝から青いテントが海岸に張られている。午前８時頃から男性たちが浜辺に旗を立てる。テントのそばで火を起こし、供物や接待のおかずとなる魚を焼く。やがて参加者とシンバンが集まってくるとテントの中でクッが始められる。男性の手伝いが何人かいたが、作業のないときは来客用のテントの中で花札をやっていた。

1）テントの中でシンバンが神々の名前を呼んで迎え、さらに参加者の名前を読み上げる。

2）シンバンが海に向かって木の枝を振りながら祈り、供物を投げ入れ、海から長い布をテントまで敷く。長い布は龍王道になる。

3）シンバンは龍王道でインジョンを貰いながら、神刀占いをする。長い時間をかけて大勢の海女の占いをする。

4）種蒔き、種占いをやる。

5）鶏を殺して穴に埋める。

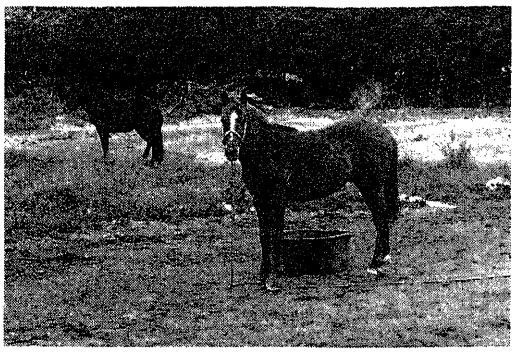
6）船送りをする。

＊4）～6）は見ることができなかったので、後で参加者に確認した。

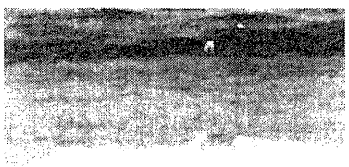
古城里の景観とヨンドンクッ



コソンリでゴマの収穫をしていた夫婦



コソンリで放牧されている済州島の馬

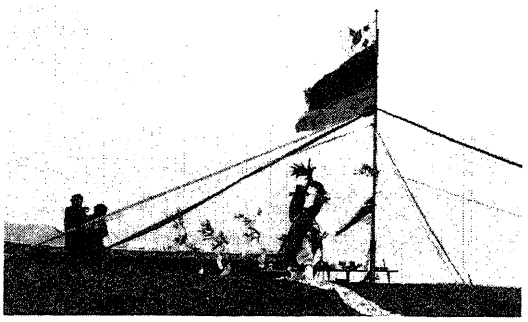




海に供物を投げるシンバン



海から布を曳いて道を作る

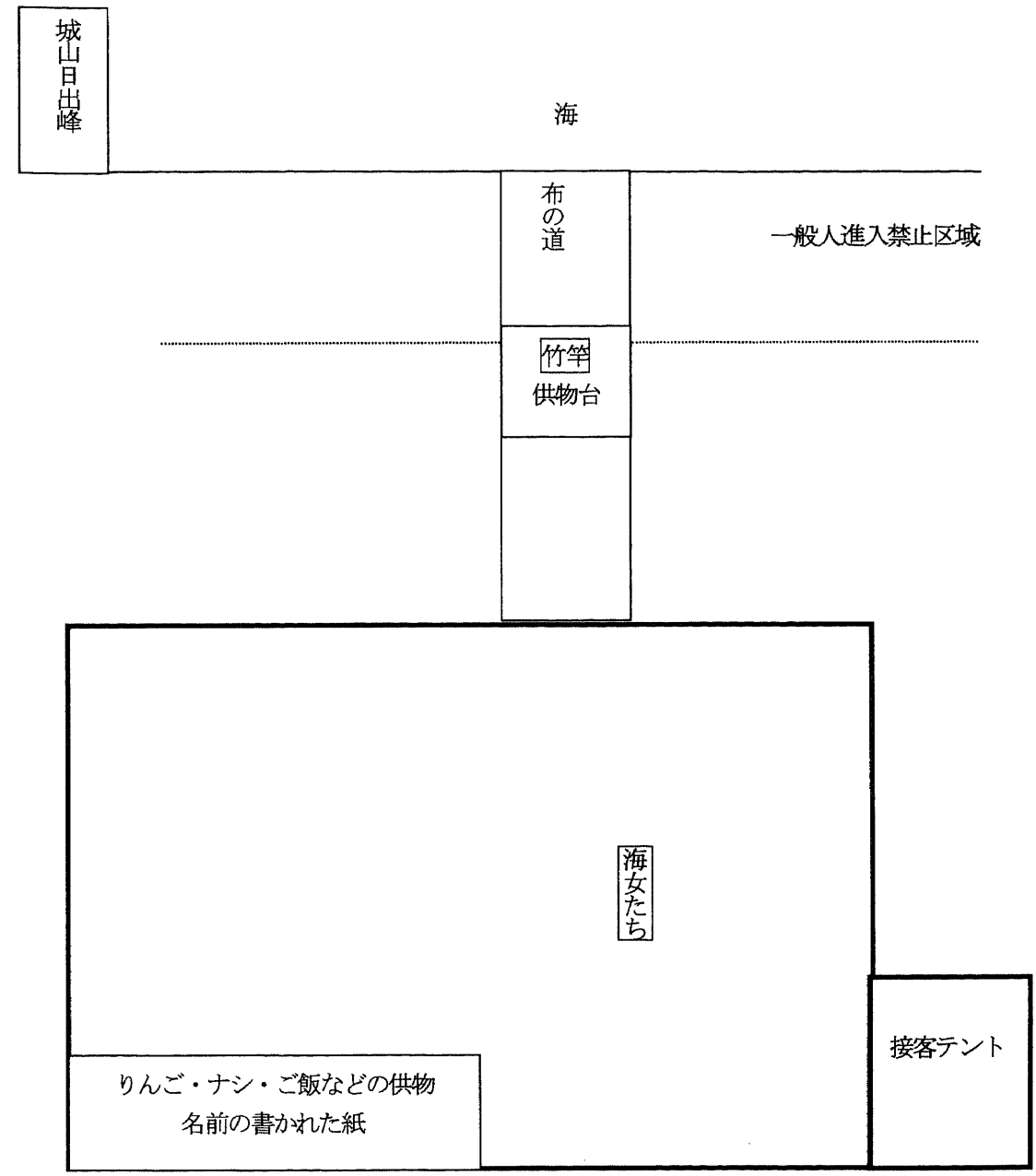


海に向かって祈るシンバン



龍王道で占いをする

古城里ヨンドンクッ会場概念図



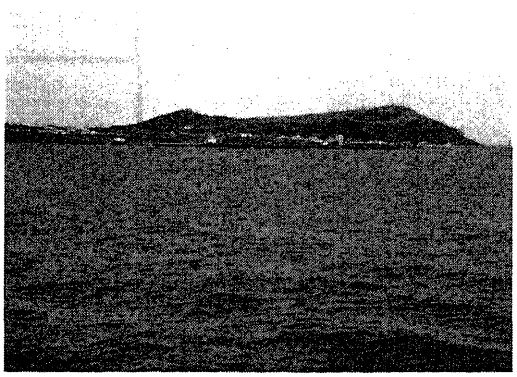
料理場所　魚を焼く場所　焚火

5．牛島（ウド）

（1）集落の概要

牛島は城山邑から船で30分ほどの離島であり、牛島から福岡までは4時間でいけるという。海岸の長さは17km、人口1800人、780世帯で、海女は420名いる。畑も多くピーナツが名産であり、石垣を築いて潮風から作物を守っている。観光業も盛んで、夏は海水浴にやってくる観光客でにぎわい、レストラン、民宿、レンタサイクルの店も見られる。

ウドはオボンギ（5つの峰）といって、5つの村からなる。私たちの訪れた8月24日は墓掃除の日なので家族で草刈機を持って墓まで草刈にいく光景がみられた。また、各家々の入り口に国旗が翻っていた。海岸には防邪塔という石積があり、これは火を焚いて合図をする見張り台である。海岸ではワカメをビニールで覆って乾かしている。昔はワカメの太い茎を燃料にしたというが、現在ではヨードチンキの原料になる。牛島の女は10歳になると海に潜るという。海で採集するものはテングサ、ワカメ、タコなどである。



ウド全景

牛島の一番地は飛陽島であり、現在では橋で、牛島とつながっている。飛陽島は外ビアンドともいわれる。それに対して、牛島は内ビアンドと呼ばれる。

ウドには以下の5つの堂がある。

①ハウモクトンダン

ヨンドンクッを3年前までやっていたが、シンバンがいなくなってからはやらない。現在は、老人会長が1月15日にタンゼ（堂祭祀：シンバンがいないためクッではなくゼサになった。）でヨンドン神の迎えの儀式を行う。10年前に堂を補修したが、堂の左わきに昔の石垣が残っている。堂から約50メートル離れた所に海女たちの更衣室がある。

②チュフンドン

石垣に囲まれた小さな堂である。この堂は船主がペッコウサ（船の祈願）をするところである。その北東方向に石を積んだ塔があり、その頂上に一つの細長い石が乗っている。この石は男性のシンボルを表しているという説がありハルマン堂といわれる。また、災いを防ぐ石とも言われ、その石で叩き災いを防ぐという。さらにその前方にもうひとつの石積があり、これらの二つの石積は夫婦神であるといわれ、その場合こちらがハルマンであるといわれる。

③チョンヌルトンダン

以前はヨンドンクッが行われていた。そのそばにプルトッ（海女が寒いとき体を温める建物）が二つある。

④ハゴストンダン

漁船のために儀礼をやるタン。

⑤ビアンドンタン

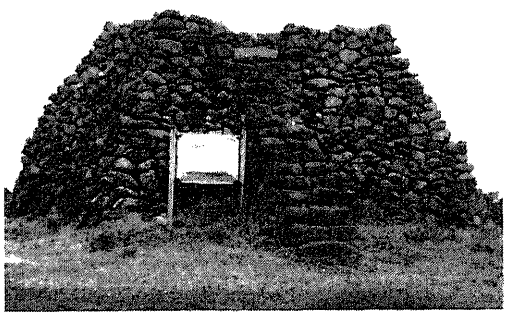
1月15日から2月15日の間にヨンワンクッ

を行う。

牛島の老人たちは、ヨンドンタルは1月15日から2月15日だといい、1月15日にヨンドン神がやってきて2月15日に出て行くという。牛島出身の梁貞順シンバン（後述）によると、1月15日にヨンドンクッをやったが今はやっていないという。



観光客の訪れる浜辺



海岸に残る見張り塔

（2）聞取り調査

①牛島出身の新陽里の梁貞順シンバン

・日時：2008年8月24日　夕方

・場所：梁シンバンの家。

・話者：76歳、酉年。牛島出身。子供の頃から海にもぐって海女の技術を身につけた。20歳のとき釜山へ出稼ぎに行き21歳で結婚した。34歳のとき病気になり病院にいってもクッをしても直らなかった。シンバンに「私たちみたくクッをやったら（シンバンになれば）病気が治る」といわれてシンバンになったという。



梁シンバン

《内容》

・新陽里について。

新陽里には5つの村があり、1月2日、1月15日、2月15日、7月12日にクッをやる。（ここは海女は何人くらいいますか）ここは半農半漁、海女の数はわからない。

・牛島のヨンドンクッについて

牛島では迎えと堂祭（タンジェ）を一緒にやる。送りはやらないが、昔はやっていたかもしれない。牛島にいたときは子供だったのでヨンドンクッには参加しなかった。

・ハンニム・ハンスリのヨンドン堂についてご存知ですか。

よく知らない。

・迎えのときにキメを海に持っていってヨンドン神を迎えましたか。

そんなことはやらない。済州島ではそんなことをしない。

・ヨンドンクッ以外でもエンマギ（鶏を殺して厄払いをする）をやりますか。

エンマギはいつでもやる。

・ヨンドンクッ以外には海に向かってチア

レム（供物の紙包みを海に投げる）のような儀式をやらなかったのですか。

チアレムはヨンドンクッだけでなく、海女たちは他のときにもチアレムをやる。

・ヨワンクッ（ヨンワンクッ、龍王クッ）とヨンドンクッの違いについて。

あまり違いはない。ただし、ヨワンマジとはいうがヨンドンマジとはいわない。鈴を鳴らしたりするのはヨワンマジ。

・迷信打破運動のときはどうでしたか。

刑事と喧嘩をしたり、警察にもいった。クッをやるなといわれたから、「あなた病気治せるの、あなたが治せるならやめる」といって刑事と喧嘩をした。

・シンクッをやりましたか。

39歳のときシンクッをやった。そのときの先生がカンプンオンシンバンで、彼は下道里のシンバンであるの高福子の叔父（母親の兄）である。高福子の母のヤンビリエも有名なシンバンだった。シンクッは15日間やった。シンクッをやっていろいろなクッのやり方を身につけた。40代になってから、キンマントンというシンバンの下で再びシンクッをやった。50代になって高福子と一緒に再びシンクッをやった。



梁シンバンの巫具

（この後、梁シンバンの巫具を見せていただいた。巫具のシンカル、サンバン、鈴はぴかぴかに磨かれていた。さらに新陽里の本郷堂を案内していただいた）

6．翰洙里（ハンスリ）

（1）集落の概要とヨンドン堂

翰洙里は翰林邑に属する。張籌根『韓国の民間信仰』に掲載されているヨンドン堂の写真の住所は翰林邑洙源里（スウォンリ）である。しかし洙源里が二つの村に分かれ洙源里と翰洙里になったため、現在の住所は翰洙里である。ヨンドン堂は「翰林一里」という大きな石碑の立つ漁港から上がっていったところにあった。ヨンドン堂のあった場所は、2006年にアパート群の工事が開始され、アパート群は2008年３月に竣工した。そのためヨンドン堂は消滅した。

「翰林一里」は大きな漁港で魚市場がある。漁港の右手の突き出したテッサムコチという海岸にデソムハルバン（竹島爺の意味）という本郷堂があり、その前方に石垣に囲まれた場所がありテントが張れるようになっている。石垣の囲いの中で仏教信者たちがヨワンジェをやるという。海岸の前方には大きな島が見える。この島は飛揚島（ピアンド）という火山島である。

（2）翰洙里で行われていたかつてのヨンドンクッについて

済州民俗博物館長・泰聖麒氏と姜宗圭シンバンは翰洙里の住民ではないが、ハンスリで行われていたヨンドンクッについて語っていただいた方なのでこの項に入れる。

①済州民俗博物館長・泰聖麒氏

・時間：2008年８月22日午前10時30分～午前11時40分頃

・調査地：済州民俗博物館

《内容》

・迷信打破運動以前と以後のヨンドンクッの変化について。



泰聖麒氏

昔から済州島は堂500、寺500といわれるぐらい堂と寺が多かった。しかし、李朝時代、済州島に派遣されたイヒョンサン牧使が（地方を管理する役人）迷信打破として数多くの堂と寺を破壊したという記録がある。

翰林天主教会から100メーターくらい離れている畑の上にあったヨンドン堂には、昔、ヨンドンクッの時は済州島の主なシンバンが100人くらい集まったという。５日間は神招き、５日間は神もてなし、５日間は神送りである。（昔は、ヨンドン神は正月15日に来たというシンバンもいますが）。そんなことはない。日本時代になってヨンドンクッは禁止され、ヨンドンクッはシンバンたちによって自分たちの堂でばらばらに行われるようになった。本郷堂が山の中にあるところは、ヨンドンクッをやるとき海辺に祭壇を設置してやることにした。

1970年代軍事独裁政権は新しい村づくり運動のスローガンをたて、また迷信打破運動が起こった。しかしヨンドンクッはなくならず、秘かに隠れて行われていた。迷信打破運動の時は国が巫具を没収して始末書を書かせてヨンドンクッを禁止した。市長はヨンドンクッをやらないと表明したシンバンたちに表彰状を与えた。しかし、始末書

を書いた翌日、シンバンはまたヨンドンクッをやった。人々はヨンドンクッの信仰が染みついているからやめることは出来なかった。ヨンドンクッをやらないと不安で、海の海産物の収穫も心配になる。現在は知識水準も医療水準も上がり、他の信仰に頼るようになるなどの理由でヨンドンクッをやらない村が増えてきた。

・国から文化財指定されたことによって変化はありましたか。

昔のヨンドンクッと今のヨンドンクッの違いは、今は見せるためのヨンドンクッで、昔は信仰のためのヨンドンクッといえる。昔は海女の数が多かった。ひとりひとり祈願をするので時間がかかって3～4日かかった。クッの内容に変わりはないが、今は一日でヨンドン神迎えと送りの両方をやっている。

・ヨンドンクッ、ヨンワンクッ（龍王クッ）、チャムスクッ（潜水クッ）の関係について。

ヨンドンクッ、ヨンワンクッ、チャムスクッはすべてが海に関するクッなので、同じ観念で受け入れている。だからヨンドンクッはヨンワンクッとも、チャムスクッともいえる。ヨンドンクッもチャムスクッも言い方は違うが同じです。

・ヨンドンポンプリについて。

ヨンドン神話を語るのがヨンドンポンプリ。

・コソンリでは海からテントまで長い龍王道をつくっていたが、こんな長い道を昔から作っていたのですか。

昔はお金がなかったからできなかったが、今はお金ができたので気持ちでやっている。

・ヨンドンクッは豊漁、豊農どちらが目的ですか。

済州島は半農半漁だから、半分半分です。

②姜宗圭シンバン

・日時：2008年8月23日午後

・場所：済州市下貴二里の氏の自宅

・話者：1921年生まれ。世襲のシンバンではない。エウオルヘシンダンなど4つのタンメンシンバンとしてクッを行っていた。

《内容》

・昔のヨンドンクッの目的はなんですか。

昔のヨンドンクッでは農作物の豊饒と、馬の繁殖を願った。



姜宗圭シンパン

・日帝時代と迷信打破運動の時代はどうでしたか。

日帝時代にはヨンドンクッをやめさせられた。自分はもうやらないと始末書をかいて賞までもらったが隠れてやった。

・昔シンバンが集まってヨンドンクッをやったことがありますか。

済州島のタンメンシンバンが何人か集まり、翰洙里チョンギョエのヨンドン堂でヨンドンクッをやった。付き合いのあるシンバンたちが集まった。ヨンドンクッではチョガムゼをやって神を招き、竿（キメ）を持って家々を廻りお米を貰った。

・ヨンドン堂について

ここから30分くらいいった翰林にヨンドン堂が残っている。ヨンドン堂は翰林の村にしかなかった。

・ヨンドン堂でやっていたのはいつ頃ですか。

戦争前、日本時代の前のこと。日本時代のときはやらなかった。(先生がお生まれになったのは日本時代ですね) ヨンドン堂のヨンドンクッについては自分の先生から話を聞いた。

・ヨンドンクッでは迎えの儀礼をやりましたか。

迎えは5日間やった。2月1日に迎えの儀礼をやって、あくる日から5日間家々を廻った。送りは15日に同じ場所でやった。2月14日にヨンドン堂にシンバンが集まって送りの儀式をやったが、それほど盛大にはやらなかった。

・龍王道を作って龍王迎えをやっていたのですか。

そういうことをやるのはチルモリダンだ。龍王道は作らなかった。木を持って家々を周り、占いをしたりしてお米を貰っていた。

・迎えのときはチョガムゼをやりましたか。

やった。(チョガムゼのときヨンドンポンプリをやりましたか) ヨンドンポンプリはない。

・迎えの儀式にも送りの儀式にも海女が集まりましたか。

何人か集まった。

・神様を降ろすときキメ(竿)をゆすったりしましたか。

昔はもっとシンプルだった。今のは見せるためのもの。

・今ヨンドンクッでやっているような種占い、種蒔きはやっていましたか。

種占いはゴザの上に蒔いてやった。種蒔きは船に乗ってシンバンがやった。

・ベバンソン(藁船送り)はやりましたか。

やった。船は1艘だった。

・米占いをやりましたか。

写真(下道里の米占いの写真を見せた)と似ているのをやった。

・なぜ龍王道でヨンドン神も招くのですか。

龍王道を作ったからヨンドン神も一緒にきなさいという意味。たとえば龍王を大統領としたらヨンドン様はちょと下の総理みたいなもので、別々には迎えない。

・ソウジェソリはクッのあと必ずやるのですか。

いつもやるとは限らない。

・ヨンドンクッは海女が中心になってやるというが、ヨンドンクッ以外に海女が中心になってやるクッはありますか。

ヨンドンクッ自体も海女と船主が一緒にやる。海女だけのクッはない。

・楽器を演奏しないクッは何ですか。

楽器はクッにつきもので、ヨンドンクッやクッをやるときだけソウジェソリをやる。

・クンクッのときはソウゼェソリはやらないのですか。

やるときとやらないときがある。

・クンクッは年に何回くらいやりますか。

若いときは年に4～5回くらいクンクッを行った。最近はお金がないからクンクッをやる人は少なくなった。今のシンバンの中でクンクッをやれる人はソンチェジュ、ヤムチェンボ、キム・ユンスなどがいる。

・1月15日にヨンドン神がくるという話があるが?

そんなことはない。ヨンドン神は2月1日にやってくる。ある本では1月31日にくるといわれている。西帰浦（ソギノポ）の方はない。

・2月1日から2月15日までヨンドンタルの間は漁をしないというタブーがあるが、この村はヨンドンクッをやらないわけだから、そういうタブーはないのですか。

ヨンドンクッをやっていない地域ではタブーを守らなくてもよい。

・この地域はヨンドンクッをやらないからチャムスクッやヨワンクッをやりますか。

2月1日から2月15日の間にクングッをやる場合、ヨンドン神の御膳を別に供える。

・ヨンドン神が2月1日から2月15日に来ることにあわせてクッをする人は多いですか。

ヨンドン様の隣に供物をたててやる。

・昔からエンマギ（鶏の厄払い）をやっていたのですか。

昔からやっていた（ヨンドンクッ以外でもエンマギをやったのですか）ヨンドンクッ以外でもやった。

・山間部でもヨンドンクッをやっていたのですか。

やっていない。

（姜宗圭シンバンの庫房の巫具を拝見した）

③ヨンドン堂跡近くの畑の男性への聞き取り

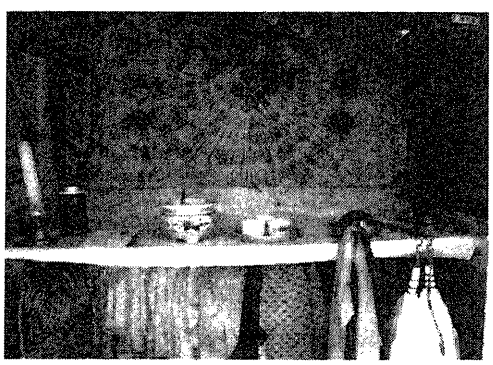
・日時：2008年8月23日　夕方

・場所：翰洙里チョンギョエのヨンドン堂跡近くのゴマ畑。近くに新しいアパート群が見える。

・話者：畑仕事中（ゴマ畑）の男性（64歳）

《話の概要》

ヨンドン堂は今みえる新しいアパートの106号棟あたりにあった。アパートを建てるとき堂の木（ペンナム）をアパートの入り口の庭に移植した。ヨンドンクッのときは石垣の上にテントのような白い布を載せていた。ヨンドンクッは4日間くらいやった。このとき、子供たちは餅を貰いにヨンドン堂にいった。シンバンがお米を貰いに各家々を廻ったが、もらえる家ともえらえない家があった。ヨンドンクッは豊作願いだった。種占いをやった。現在、ヨワンジェは海女の控え室でお坊さんがやっている。



姜シンパンの庫房に祀られた巫具



新しくつくられたアパート群

④翰洙里の老人会長と海女会長へのインタビュー

・日時：2008年８月23日　夕方

・場所：翰洙里、港近くのレストランのベランダ。

・調査状況：老人会長が先にやってきて先に帰った。

《内容》

・ヨンドン堂の場所はどこですか。

ヨンドン堂はチョンギョエのカソリック教会から斜め前の畑の向こう側にあり、石垣を高く積んで入口は一人が入れるくらいで、上にテントが張れるようになっていた。一見するとエスキモーのテントのようだった。現在、アパート群がありその106号棟のところにあった。そのアパートを建てる時、ヨンドン堂のペンナムを106号棟の庭に移した。

・ヨンドンクッの時期はいつでした。

２月をヨンドンタルとして、生気福徳で日を選び、15日間祭りを行った。この時期には、翰林邑・涯月（ユウウォル）邑の人々が供物をもってヨンドン堂までやってきた。

・迎えの儀礼はどのようにやりましたか。

迎えの儀式では、まずシンパンがキメ（竿）を海辺に持って行き儀礼をしてヨンドンハルマンを迎える。迎えたヨンドンハルマンを連れてクンソンハルバンの堂まで行き、クンソンハルバンに挨拶させてから、ヨンドン堂にむかった。ヨンドン堂の前にキメを立てて迎えの儀礼を行った。竿をたてることによって神様がいることになる。供物の膳は丸い膳でご飯ともち（粟で作った餅・トレトック）、オットム（魚の開き）、ナムルと果物の供物の膳が20～30並んだ。サシミもあった。シンバンの衣装は真っ白で白い帽子をかぶり、ドッポという軍服のような白い衣装をつけていた。



翰洙里の老人会長



翰洙里の海女会長

・送りの儀礼はどうでしたか。

送りの儀礼はすごく楽しくて、みんなで踊りを踊ったりした。船を１艘立派に作り（藁ではなく別の素材）、ブタの頭まで入れて、ビアンドの前で恵方の方向に向かって流した。

・クッに集まってきた人々は。

涯月邑、翰林邑の人々が供物を持ってヨンドン堂にやってきた。子供たちにモチを配ったので、小学校当時はモチを貰いに行くのが楽しみだった。

・占いとシンバンの収入は。

ヨンドンクッではシンバンたちがヨンドン堂に集まり儀式を行った後も、５～10人がローテーションを組んで、ずっとヨンドン堂にいて夜明けまで占いをやっていた。人々が集まって来てシンバンに占いをやってもらいお金を渡すのでシンバンにとってはよい収入になった。その頃は貧しかったので、夜明けまで占いをやっていた。迎えの儀礼の次の日から小巫がペナンという袋

を持ってお布施を貰いに家々を回った。人々はお米をあげた。このクッだけでシンバンは一年分の収入を稼いだといわれている。

・ヨンドンクッの禁忌。

２月には、船に乗ってはいけない。洗濯をするとうじが湧くなどといわれている。それは、シンバンが作った噂で本当はここに来なさいという意味だった。

・クッの廃止と復活について。

シンバンが亡くなったのでクッは中止になった。村で船の事故があったり海女が死んだりしたので、「ヨンドンクッをやらないからなるのだ」ということで、堂の前にサムホンカンを作って１月15日に豊漁祭をやるようになった。４人の代表（老人会長・里長・漁村係長・賛助会長）で行う儒教式の儀式で約200万ウォンかかる。船34隻で年一回、会費を出し合い、その会費でヨンワンゼをやる。

・ヨンドンクッをやっているところはどこですか。

済州市はやるが、西帰浦の方はヨンドンクッをやらない。迎えをやっているのはソンサンと牛島。

・ヤクバライについて。

エンマギ（鶏殺し）はヨンドン神とは関係がない。ヨンドンクッは病気の人とは関係ない。

⑤老人会長

・時間：2008年８月25日　午前

・場所：老人会長の家

・調査状況：２日前にお会いしてお話をお聞きしたが、さらに詳しくお話をうかがった。

《内容》

・ヨンドン堂はこの村の堂だが、ヨンドンクッには他の村の人もやってきたのはなぜですか。

他の村にはヨンドン堂がなかったから。

・男性はヨンドンクッに参加できなかったのではないですか。

男性も物を運んだり、舟を作ったりしてヨンドンクッに参加した。供物を持って中に入れるのはシンバンだけ。私が軍隊に行って帰ってきた頃（23歳）、クッがなくなった。

・豚肉、牛肉を供えましたか。

昔は豚肉、牛肉は高いので供えなかった。お金を集めてやっていたわけではなく、シンバンたちが全部やったから、お金がないので肉はなかった。

・ヨンドンクッのやり方について

シンバンが中心だった。村の人も船を作るなど手伝ったが、シンバンが全部用意した。位牌も何もなく、神様の名前を書いた紙をかけてやった。翰洙里が全部主催したならば記録があるが、シンバンが全部やったので記録がない。

・ヨンドンクッの主催者はだれでしたか。

主催者はいなかった。シンバンが夜遅くまで自分たちで準備した。

・張籌根『韓国の民間信仰』によると、ヨンドンクッでは神様の衣を用意したが、それは男の衣装だったと書いてある。ヨンドン神は男なのですか。

話によると、航海中に死んだ夫婦の死体を何日もかけて捜し、牛島でハルマンの死体を見つけ、こちらではハルバンの死体を

見つけた。そのため、ここではヨンドンハルバンといい、男の神様。

・対岸の島、飛揚島（ヒヤンド）について教えてください。

火山でできた島で、1002年に火山が噴火した記録がある。最近、噴火１千年記念祭をやった。

・ヨンドンクッの期間に他のクッをやる場合、ヨンドン神もそのクッで祀ったのですか

ヨンドンタルには他のクッをやらなかった。

⑥ヨンドン堂跡の近くのゴマ畑の家の奥さんとその知り合い

・時間：2008年８月25日　午後２時頃から約30分。

・場所：ヨンドン堂跡の近くのゴマ畑の家の入り口

・話者：話者の二人は嫁だったので姑がヨンドンクッに行き、自分たちは遠くから見るだけだったという。そのため、ヨンドンクッについて聞いた話と見たことを語ってくれた。

《話の概要》

迎えの儀礼は満潮時、夕方５～６時頃、ヘソンダンの前で行った。そのときは、音楽をならし、踊りを踊ったりして、チギの中に神様を呼んで、ハルバン堂にいって挨拶をさせ、次にヨンドン堂に持っていった。ヨンドン堂は一部屋くらいの石垣の囲いがあって中には何もなかった。中（前？）にチギを立てて、終わるまで触らなかった。チギは緑、赤、黄色の３色だった。そのうちに小巫が村の家々にお米を取りに廻った。当時はお金ではなくお米だった。だが、実際は、お米が高かったので麦を渡した。当時は米の値段が高かったので、シンバンは貰った米を店に売った。店に売っても、店にはお金がなかったので、支払いを催促すると「じゃ、うちの畑もっていって」と、お米と畑の物々交換みたいなことをやっていた。シンバンの集めたお米の量は多くて、当時の土地の値段は安かった。クッの予算もある程度シンバンが決めた。このくらい貰いたい（お米で貰う）という金額をある程度決めていて、その分のお米を貰わないと、クッの終わる日にちを延ばした。

迎えの儀礼も送りの儀礼も、戌の日、丑の日が縁起がいい日なので、その日を選んで行った。２月１日なら必ず神様が来る。いつ帰るかはシンバンたちが縁起のいい日を選んで決めた。２月のいつになるかはわからないから、２月の１ヶ月はヨンドンタルと決めた。だが、クッは２月の最初になるか、真ん中になるか、後ろになるかはわからない。

ヨンドンクッをやらなくなったら、悪いことが起こったので隣の村のボサツ（女性）がこの村に来て、ヨンドンクッをやらないとだめだといって、自分でお金を出してヨンドンクッを復活させた。その人の住んでいるところは涯月なので、涯月のボサツといった。涯月のボサツはシンバンのやることができるので、いろいろやってお金をもらっていった。５年くらいやっていたが、その人が死んだのでやらなくなった。国から指定されて、80年代から国がやれやれというから、やってみようということになり、隣の（隣の村？）シンバンに頼んで何年か

やっていたが、そのシンバンは3年前になくなった。

ヨンドンクッは80年代のはじめまでやっていた。供え物は、お米、粟、果物（ゆず）、オットム、粟餅、ナムル、蕨、甘酒だった。船は藁で作ったが、後に木で作ることになった。船を送るときは遠くに行くように5時から6時の満潮時に送った。そのときには踊りを踊ったりした。

まとめとして

第1回済州島訪問後、何度も研究会を持ち調査のまとめを行った。また、ヨンドンクッに関する先行文献を幅広く探して済州島のヨンドンクッについて調べた。その結果、我々の見学したヨンドンクッ以外にも、様々な形のヨンドンクッがある（あった）のではないかとの疑問を持った。第1回で見学した4ヵ所のヨンドンクッについても追調査の必要性を痛感した。

第2回目の調査では、前回の訪問では出来なかったヨンドンクッ関係者であるシンバンや海女、村の人々からの聞き取り調査を中心として行うことにした。調査からは、ヨンドンクッが多様に継承されてきていることが理解できた。同時に現在ではシンバンやヨンドンクッを支える海女の減少により、昔多くの村で行われていたヨンドンクッが中止になり、タンクッやヨアンマジなどの形で引き継がれている（らしい）ということもわかってきた。

さらに、聞き取りの進行に従い、話者からの紹介で牛島や翰洙里関係の話者が加わっていった。各地域の話者からは各地に残るヨンドンクッのかつての姿と変化が語られ、話者の言葉から多くの事柄が繋がっていき、ヨンドンクッを多面的に見ることが出来た。これら話者の話をつなぎ合わせる作業を通じて、かつてのヨンドンクッの祭祀（ひとつではない、さまざまなヨンドンクッである）とその変化、またヨンドンクッを主催する人々、および関係者がより具体的な形で浮かび上がり、済州島のヨンドンクッのある程度の全体像をおぼろげながら掴むことが出来た。

これら2回にわたる調査とグループ研究の成果によって、日本民俗学会第60回年会（開催地：熊本大学）において、グループ発表「済州島のヨンドンクッ」（金泰順「かつてのヨンドンクッ」、古谷野洋子「ヨンドンクッにみる来訪神儀礼」、大橋克己「海女の側から見たヨンドンクッ」）を行うことができた。しかし、現状は済州島のヨンドンクッについてさまざまな課題が見えてきたという状況であり、今後の息の長い地道な調査と研究が必要であることはいうまでもない。

＊梁貞順シンバンは新陽里、姜宗圭シンバンは下貴二里のシンバンであり、済州民俗博物館長泰聖麒氏は済州市三陽洞にお住まいだが、話の内容に関連のある項目に入れた。

＊聞き取りの報告は、読みやすいように質問の前後など多少編集した。また、紙面の関係上、割愛した部分もある。話者の話の内容はわかりにくい部分、矛盾している部分もあるが、記録としてそのまま記した。なお、話者のプライバシーに関する部分は除いた。

＊地名・人名の表記については、わかるかぎり漢字表記にルビをつけた。

《付記》

第1回調査参加者：佐野賢治　金泰順　古谷野洋子　大橋克巳　サイモン・ジョン　松本美虹　門脇鮎子　古谷野昇

第2回調査参加者：金泰順　古谷野洋子　大橋克己　サイモン・ジョン　古谷野昇

通訳：金泰順

第2回調査質問者：金泰順　古谷野洋子　大橋克巳　サイモン・ジョン　古谷野昇

フィールドノート作成：金泰順　古谷野洋子　大橋克巳　サイモン・ジョン

写真撮影：古谷野昇

最後になるが、濟州大學校高光敏先生には済州島の漁撈に関する多くの助言を頂いた。また、2008年8月の「第167回　仏教民俗研究会」（主催者：坂本要　開催地：東京学芸大学）の「済州島のヨンドンクッ報告」において、諸先生方のさまざまな助言を受けたことは、第2回調査において非常に役に立った。ここに記して謝意を表すものである。

《本報告書における主な参考文献》

秋葉隆　1954『朝鮮民俗誌』六三書院

泉靖一　1966『済州島』東京大学出版会

菊地和博　2003「韓国済州島「ヨンドン祭研究序説」『東北学vol.9』

玄容駿　1985『済州島巫俗の研究』第一書房

鈴木正崇・野村伸一編　1999『仮面と巫俗の研究』第一書房

竹田旦　任東権（訳）1992『韓国の民俗体系　第5巻　済州道篇』国書刊行会

耽羅研究会　会誌『済州島』（第1号～8号）新幹社

張籌根　1974『韓国の民間信仰　論考編』金花舎

1986『新増東国輿地勝覧　第二』国書刊行会

1995『韓国地理風俗誌叢書　100』景仁文化社　影印